

県教育支援センターの取組

県教育支援センターでは、昨年度に引き続き、メタバース（仮想空間）上の学びの場による児童生徒への支援（メタサポキャンパス）、学校や関係機関などへの訪問による助言及び情報提供（アウトリーチ型支援）、魅力ある学校づくり研修会（不登校の未然防止に向けた研修会）の3事業を中心に不登校児童生徒への支援の推進を図ってきました。

メタサポキャンパスでは、令和6年12月末現在で146名の利用申請があり、毎日約35名の児童生徒が入室している状況です。利用児童生徒同士で楽しく会話することや、キャンパス内に利用児童生徒の作った作品を掲示することが増えてきました。本年度は、教育支援教室「こまどり教室」との連携やオンラインによる交流、体験活動を通して、居場所を広げて活動しま

した。

アウトリーチ型支援では、各小・中学校の校内研修会や支援会議、市町教育委員会主催の研修会において、不登校に対する教職員の捉えや価値観の見直し、個々の児童生徒に応じた有効な支援の在り方等について、講義・演習を行いました。

魅力ある学校づくり研修会では、年2回研修会を開催し、児童生徒が安心して過ごせる居場所づくりや、子どもに寄り添う支援の在り方について、様々な関係機関の皆様と一緒に考える機会を持つことができました。来年度は、東・中・南予別での開催を予定しています。



令和7年度研修講座の紹介

【基礎研修】

基礎研修は、教職員のキャリアステージに応じて、初任者及び新規採用教員研修、フォローアップ研修、中堅教諭等資質向上研修としてキャリアアップ研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（しゅうかい）で実施します。令和7年度から次の3点に変更されます。

- 除算の廃止
- 受講年度の柔軟化
- 免除制度の見直し

【専門・課題別研修】

専門研修は、学校経営や学校運営等、専門的・特定分野に関する研修です。8講座を開設します。

課題別研修は、今日的教育課題への対応と職務実践力の向上を図ることを目的とした研修です。9分野76講座を開設します。

基礎研修及び専門・課題別研修は、それぞれ受講対象者、申込期限が異なります。「研修のしおり」（3月下旬にホームページに掲載予定）を御確認の上、お申し込みください。

【出前講座】

出前講座は、総合教育センターの所員が、対面やオンラインで、校内研修や教科等研究委員会、市町教育委員会が主催する研修等を支援するものです。令和7年度は、45講座を開設予定です。

【放課後ミニ研修】

放課後ミニ研修は、放課後の短い時間（30分～1時間）に、学校や幼稚園等の教職員と本センター指導主事をつないで実施するリアルタイム・オンライン研修です。申込みは、Formsを利用し、実施日の1週間前まで可能です。少人数で実施する講座が多いため、双方向での対話がしやすい研修です。お気軽に御参加ください。詳細は、「学校支援事業リーフレット」（4月上旬予定）を御確認ください。

総合教育センターホームページのURL
<https://center.esnet.ed.jp/>



全国教員研修プラットフォーム [Plant (プラント)] について

令和7年度から「全国教員研修プラットフォーム [Plant (プラント)]」（以下、Plant という。）の運用を開始します。本センターの研修も、基本的に Plant を利用して実施しますので、一人一人がシステム上で研修を検索の上、お申し込みください。また、管理職の先生方は、申込期限までにシステム上で御承認ください。

受講履歴の記録、確認もシステム上で行うことができます。受講を計画する際の参考として、御活用ください。

若手教員支援について

本センターでは若手教員の支援を行っています。若手教員の教育に関する相談窓口を設けるとともに、教職員厚生室が作成したPR動画に本センターの指導主事が出演して「メンタルヘルスさくらさん」によるセルフケアを呼び掛けました。動画は、愛媛県公式 YouTube や本センターホームページで見られます。若手教員のみなさんの未来を、これからも応援しています。



交通安全推進メールマガジンの配信について

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指し、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。



育心拓夢

- 相談支援部長挨拶 …… |
- 令和6年度調査・研究発表会について …… |
- 令和6年度調査・研究の概要 …… 2・3
- 令和6年度高等学校理科研修講座研究の概要… 2・3



「中干し」に学ぶ

相談支援部長 菊池 正敏

本センターは、松山平野の東部に位置し、背後には石鎚山系、血ヶ峰連峰等の雄大で美しく連なる山並みが見られます。センター周辺には、その豊かな山々から重信川に注がれる清らかな水を利用した多くの水田があります。水田を見るといつも感心するのが、稲を力強く育てるための水管理の妙です。5月の田植え時期には豊富な水をたくわえ、しっかりと栄養を与え、稲がある程度育った夏の暑い盛りに水を一気に抜き、土にひびが入るまで乾かします。これが「中干し」と言われる作業です。この作業によって稲は水を求め、自ら根を伸ばしていきます。少々の風では倒れない、強い稲に成長することができるのです。

のどかな水田の風景とは一転して、現代の社会に目を向けると、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、目まぐるしく変化する予測困難な時代となっています。このような時代を生き抜くためには、様々な変化に積極的に向き合い、自ら問いを見だし、他者と協働して課題を解決していく「生きる力」

愛媛県総合教育センター所報 No.172
(令和7年3月14日発行)
<https://www.center.esnet.ed.jp/>
〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地
TEL 089-963-3111(代) FAX 089-963-3146

- 県教育支援センターの取組 …… 4
- 令和7年度研修講座の紹介 …… 4
- 全国教員研修プラットフォームについて …… 4
- 若手教員支援について …… 4

がますます必要になっています。先に述べた「中干し」の考え方は、この力の育成が求められる教育活動にも深く通じるものがあると感じています。子どもたちが強く育つ過程には、その子に合ったタイミングでの「負荷」と「支え」が必要です。我々教師は、研究と修養を深めながら、その最良の方策を探究し続ける必要があるのではないのでしょうか。

本巻頭言の執筆に当たり、過去の所報が保管されているセンター内の資料室を訪れました。40年以上前に書かれた当時の巻頭言で、次のような一節と出会うことができました。

「未知の事象は無限にある。教えきれものではない。覚えきれものではない。今一番必要なのは、未知事象を素材として、そこにひそむ理法に触れさせること。その「学び方」、「切り込み方」、「探り方」の方法を教えることである。」とありました。

我々教師は、ついつい知識を教え込もうとしてしまいがちですが、子どもたちが主体的に課題に挑戦できる個々に合った素材を提供し、子ども自らが深く考え、根を伸ばそうとする環境と時間を確保する必要があると改めて感じました。稲作における「中干し」に学び、子どもを見守りつつ、成長を信じて待つことも忘れてはいけなと思っています。

令和6年度調査・研究発表会について

2月13日に、集合とライブ配信を併せたハイブリッド形式で開催し、170名を超える学校関係者の皆様に御参加いただきました。

研究主題「未来を切り拓く力を育む学校教育への総合的な支援」の下、企画開発室、教育相談室による二つの発表を行いました。各発表に対して、参加者からの熱心な質問が続き、充実した時間となりました。

講演は、國學院大學教授の杉田洋先生を講師に招き、「子供たちの自信を育み、誰一人取り残されない学級づくりー求められる特別活動の教育力と指導観のパラダイムシフトー」と題し、児童生徒一人一人の自尊感情を高め、確かな成長につながる学級づくり、集団づくりを、どのような見方・考え方の基に取り組み

ばよいかについてお話をいただきました。当たり前に行っている教育活動や学校文化を問い直すとともに、海外でも評価される特別活動「Tokkatsu」の存在意義や日本式学校教育本来のすばらしさを再認識する貴重な時間となりました。

参加者からは、「自分の今までの特別活動における授業実践を振り返り、教師としての原点を見直す機会となった。」「個への対応が難しくなっている中、生成AIにはできない教師の力を高めていきたい。」などの感想が寄せられました。



